

筋を通す政治家はとことん 極めるこだわり派



衆議院議員

城内 実 さん

■ <http://www.m-kiuchi.com>

PROFILE：きうち・みのる

昭和40年生まれ。東京大学教養学部卒。平成元年外務省に入省、在ドイツ日本国大使館勤務、天皇陛下、総理等のドイツ語通訳官。平成15年第43回衆議院議員総選挙に静岡7区から出馬し初当選。平成21年第45回衆議院議員総選挙において無所属ながら自民、片山さつき氏に75,000票、民主の新人に66,000票の大差で当選。国家国民のために信念を貫く政治家。

狩猟型社会から農耕型の「万民幸福」へ

— 「真・保守政策研究会」が「創生『日本』」という名前に変わりました。まず、その経緯などをお話下さい。

城内 先週、名前が「創生『日本』」に決まりまして、きょう、その役員会がありました。2週間に一度ぐらい開催します。

テーマは「保守再生」。民主党政権になって、永住外国人の地方参政権の問題、選択的夫婦別姓問題、人権侵害救済法案など、日本の国家を解体しかねないような危険な法案が次々と出される可能性がありますので、それを何とかしようと議論しています。

自民党有志が主なメンバー、開催場所はおおむね自民党本部です。私は無所属ながら参加しています。

会長が安倍晋三元総理、最高顧問が平沼赳夫先生、事務局長が加藤勝信先生。私は事務局次長の一人として会の運営にあたることになりました。

— 全体で何人ぐらいになりますか。

城内 メンバーは80名ぐらいかと思います。

— この流れは政界で非常に注目されることでしょうか。

城内 注目されるようにしなければいけないと思っています。

この会には、昨年の選挙で落選された自民党の前国会議員も多数参加することになっています。いわゆる保守系の自民党1年生議員で会をつくっていたメンバーも、ことごとく落選されましたが、バッジはなくてもこの国を何とかしたいという思いは同じです。きょうの会合では、我々が彼らの選挙区に応援に行つて全国で運動を展開しようではないか、という話が出ました。

さっそく「創生『日本』」の幟をつくって駅で街頭演説するなど考えています。

— 動きが早いですね。

城内 のんびりはしてられません。自民党はもう野党なので、打つて出ないといけません。与党時代の残像から一刻も早く脱却すべきです。

例えば、自民党が半世紀近く使ってきた国会議事堂内の議員控室を譲る譲らないでもめたことがありましたが、あれは実に恥ずかしい。既得権を主張している場合ではないでしょう。私が自民党幹部なら、ぜんぶ明け渡し、今までのことを反省して部屋はいらない、会合は廊下でやる、副議長席も差し上げる。これくらいやれば、たとえパフォーマンスと言われようが、国民も自民党は変わったかなと思うでしょう。

— 先生は当選され、目標として「万民幸福」という言葉を掲げられました。

城内 行き過ぎた小泉・竹中構造改革路線で、まちがいなく格差社会は広がっています。富める者はますます富み、貧しき者はますます貧しくなる。派遣村はその象徴のひとつでしょう。経団連に参加しているような一部の大企業では役員の報酬も上がっていますが、一般の労働者、サラリーマンの年収は下がっています。

小泉・竹中路線の下では、なんでもかんでも規制緩和して、大企業も中小零細企業も同じルールの下で競争するというブッシュ政権の路線にならってきました。オバマ政権になって本家本元のアメリカが軌道修正しているにも関わらず、与党民主党は同じような経済政策をとろうとしており、その点、まだ小泉・竹中構造改革路線の罨にはまっているという気がします。

自民党もまだ新自由主義、小泉・竹中路線時代の総括がきちんとできていません。

— しばらく弱肉強食が推奨されてきました。

城内 日本人は限られた田畑を助け合って耕し、収穫する農耕民族です。努力した人は1割増、サボってしまった人は1割減になるけれども、みんながなんとか食べていけるような共存共栄型社会。これが私の言う「万民幸福」です。

親の総取りのような強欲資本主義、勝ち組負け組という極端なものではなく、みんなが幸せに身の丈にあった生活をできるようにしていくことが大事です。共存共栄、和の精神により、みんなで仲良く暮らす。この優れて農耕民族的な社会の在り方をこれから追求していきたい。

どんどん軍勢力を拡大してあちこちに戦争を仕掛け、マネーゲームを好む狩猟型ではない社会です。アメリカと中国にはその傾向がありますが、日本はそれと違う価値観を持つ必要があるのではないかと思います。

真実を「気が付いた者」に正義がある

— 外国人の地方参政権問題については、いろんなメディアで伝えられていますが、改めてお話し下さい。

城内 本来は議論する余地がないぐらいのことで、地方参政権は国民固有の権利であると憲法15条第1項に規定されており、最高裁でも外国人に参政権を与えるのは地方自治体レベルでも違憲であると判断されています。憲法が改正されないと認められないことなのです。

それにも関わらず、推進論者は税金を納めているからいいのではないかなどと言っています。また、民主党政権は選挙で在日本大韓国民国民団（民団）の協力を得たことから、賛成しようと党幹部の方がおっしゃっています。日本の国益をどう考えるかということも含めて、これは非常に危険です。

— 法案が成立するとどうなりますか。

城内 この法案を憲法違反を無視して成立させてしまうと、例えば外国の意向を受けた方が地方の教育行政に影響を与える恐れがあります。「私たち外国人もいるのに、日の丸や君が代はいらない。それを容認する町会議員、市会議員もいない」ということになります。また対馬など領土の問題にもたいへん大きな影響を与えます。

わずかな人数だから大丈夫という人もいますが、国会議員の選挙と違って地方議会の選挙では数票差で勝敗が決まることもあります。外国人の集団が候補者に圧力をかけるということも起きやすくなるのです。ここに気が付いていない人が意外に多い。

— もう一つ、選択的夫婦別姓についてはいかがでしょうか。

城内 親と子供の苗字が違うというのはヘンな話です。中国や韓国は夫婦で苗字が違うのも普通ですが、日本の家族にはなじみません。家族の絆とか家族意識というのが希薄になります。また嫡出子と非嫡出子の差がなくなるのは、良妻賢母型の女性にはわかりにくいことだと思えます。

なんでもかんでも自由・平等というのはおかしい。日本の国柄や伝統・文化については、何より十分に議論してほしい。民主党内でも意見が分かれていますし、よくわかっていない人も多いのではないのでしょうか。

— 先生は外国の生活も長く経験されていますが。

城内 私は帰国子女です。西ドイツの小学校に1年生から4年生まで通い、周りはぜんぶドイツ人という環境で過ごしましたが、日本に帰ってきて、日本人の共存共栄型のやり方のほうが私によく合っていることがわかりました。

日本は、会社で言えば、社長がお父さんで社員が家族のような終身雇用制でずっとやってきたわけですが、欧米流のヘッドハンティングなどが出てきておかしくなってきたような気がします。

日本の国柄や伝統・文化に合ったやり方を大事にしなが、時代の流れに沿って少しずつ変えていくのが、いちばん望ましいと思います。

— 日本観というものがぼやけてきているようです。教育に問題があるのかもしれませんが。

城内 日本人なのに日本の伝統や文化を否定したり外国のものを信奉したりする人もいます。また、フェミニズムにしてもそうですが、外国でごく少数にしか受け入れられていない考えが、あたかも日本では世界の潮流のように言われています。島国で限られた情報しか入ってこないから、誤って解釈されるのでしょうか。

郵政民営化やグローバリズムにしても世界のスタンダードではなく、ただアメリカがそう言っているに過ぎません。新自由主義経済もバスに乗り遅れるなという感覚で、なんの検証もせずに受け入れてしまいました。その結果がサブプライムローンです。よく考えれば明らかなことなのに、すぐに世界のスタンダードと錯覚してしまったのが非常に残念です。

— 先生は郵政民営化でたいへん苦勞されたわけですが、あのときはどうでしたか。

城内 もともと私は小泉総理を支える派閥、清和会にいまして、当然、郵政民営化に賛成でした。しかし勉強してその中身を知り、派閥よりも日本の国益と国民の暮らしのほうが大事と考えて、反対にまわったのです。ここが政治家と「政治屋」の違いでしょう。

推進派からすれば、私のように「気が付いた者」は存在してはいけなかったのです。飛ぶ鳥を落とす勢いの、次期総理と言われる安倍晋三幹事長代理の説得を振り切るのは、本当にたいへんなことです。「王様は裸だ」、いちばん言っではいけないことを言ってしまった私はいちばん許せない奴、ということで徹底的にやられました。

— その経緯は読者の皆さんもよくご存じだと思います。

城内 しかし、どちらが正義かは明らかです。こちら

は自分を犠牲にしても国益を守るために戦い、あちらはいわば「売国法案」の推進派。

小泉さん、竹中さんが進めた郵政民営化法案は、すべての国民が使うべき貴重な金融資産を、外国の強欲資本主義の金融資本家及びその手先に、ただ同然で渡してしまうものです。ひとことで言えば「カイカク利権」、これは私の造語です。

改革、改革と言いながら、郵政民営化のプロセスにおいて新しい利権が生まれています。国民の資産を少数の人間が乗っ取るという恐ろしい話です。

— 民主党政権になって郵政民営化の形が変わってきました。

城内 良いことだと思います。現在は5つの会社に分かれており、これをどうまとめるかが問題です。国益を守るように経営形態をきちんとしてほしい。例えばアメリカの生命保険会社を買収されるということにならないよう、国がしっかり株を保有しておくことが大事です。

住み分けの形も必要です。昔は中央に都市銀行、地方に地方銀行や信用金庫などいろいろな金融機関があり、それぞれがそれぞれの特色のなかで住み分けし、消費者も選択することができました。最近ではグローバル化の名の下にどんどん統合が進み、寡占状態になってきました。結局は国民にとって不幸なことになっています。

戦前・戦中の流行歌と政治姿勢の関係

— ところで、先生のご趣味はSP盤の収集だそうですね。オーディオにも詳しいとか。

城内 オーディオはそれほど詳しくないですが、1950年代の真空管アンプなど古いものが好きです。ときどきブログに書いていますので、詳しくはそちらをごらん下さい。

— SP盤収集のきっかけは。

城内 中学生時代、図書館で蓄音機の本を読み、デパートで売っていた蓄音機とSP盤に出会ってからです。シャーシャー言っていました、良い音だったしおもしろかった、そこから収集が始まりました。古道具屋や骨董市に出かけて箱ごと買うこともありました。

ぜんぶで3000枚はあると思います。

— それはすごい。お好きなジャンルは。

城内 日本の戦前・戦中の流行歌がメイン。だいたい



事務所で使用中の管球式プリメインアンプ
LUX-SQ62 (1962年製)

50年ぐらい前のヴィンテージアンプとスピーカ、プレーヤを使って、70年以上前のレコードを聴く、というところです。

— お話をお伺いしますと、ご趣味も先生のイメージにぴったりですね。

城内 戦後の日本を絶対とせず、戦前から歴史をひもといていけば、本来の日本の在り方が見えてくると思っています。

ある大学の先生に、私が帰国子女だという話をしたとき、「あなたは他の日本人より日本人。むしろ他の人たちが帰国子女だ」と言われました。私はドイツで初等教育を受けているからこそ、日本の教育を相対化できているが、日本にいる子供たちは戦後のGHQの教育が絶対と信じ込んでいるからだ。

— 先生は日本にとって非常に大事な人だという気がします。

城内 そんな、お褒めの言葉をいただいて。

政治においても、とことん極める姿勢は、趣味を持つことによって養われました。まあいいかではなく、政治もこだわりです。共存共栄の縄文時代のような、みんなが幸せに暮らせる国にしたい、というこだわりがないとリーダーになれないのではないかと思います。そのあたりは日本で、一、二を争うという自負があります。

— たいへん大事なことです。先生は郵政民営化で筋を通されているわけですから。

城内 私は抵抗勢力とか造反者と言われましたが、レジスタンスのつもりでやっていました。

レジスタンスはナチズムの迫害から逃れながら正義のために抵抗活動をしてきました。捕まって銃殺刑になるリスクを負いながら、歴史的正義という確信を持って戦ったわけですが、そういう人たちがいないと悪がはびこってしまいます。私も強きをくじき、弱きを

を助ける仕事をしたい。

小泉・竹中路線と今の小沢・鳩山路線は、強い者がどんどん強くなるという意味でよく似ていると思います。アメリカや中国の大陸型政治です。野党の意見もある程度聞きながら丸くおさめるのが日本型の政治でしょう。

— 小泉・竹中路線は政治のスタイルを変えてしまいましたね。

城内 自民党は、ホリエモンや村上ファンドなどのための政治をしているようなイメージを持たれてしまいましたが、それではダメ。社会党のように労働者の幸せだけでなく、懐広くみんなの幸せを考えているのが、国民政党、責任政党の自民党だったはずですよ。

一部の人々が全国の郵便局長さんや農業者を怒らせ、4000円の党費を納めて票を入れつつけてきた中小の零細企業も裏切って、経団連やマネーゲームをする人だけに目を向けて擦り寄り、こうなってしまったのです。

— 今は先が見えない時代ですが、これから日本はどうなっていくですか。

城内 私は楽観主義で、夢と希望を持っています。21世紀はまさに日本が本領を発揮するときです。日本の農作物は世界で最も質が高いのです。また究極の健康食品であるお米をどんどんつくって、外国に輸出したりODAで配ったりすればいい。日本には良いものをつくる技術も気候風土もあるわけですから。これからは農業が大きなビジネスになる時代です。

景気が悪いときは公共事業も大事ですが、ダムをどんどんつくればいいのかという時代ではありません。その労働力を農業や環境事業、医療事業などにシフトしていくことが大事です。

— 事業仕分けで節約ばかりだと、停滞してしまいませんか。

城内 ですから、日本は事業仕分けなどに力を入れるより、例えば思い切って3兆円を投資し、民間企業と協力しながら新しい産業構造を起こし、全人類の役に立つようなエネルギー技術を開発したらどうでしょうか。アメリカや中国が軍拡している間、日本は着々と技術力を貯えていくのです。

— 先生にはぜひそれが実現するようにご活躍いただきたい。期待しています。

城内 頑張ります。

— 本日はありがとうございました。

(取材日：2月10日、聞き手：SSA代表 久保田陽次)